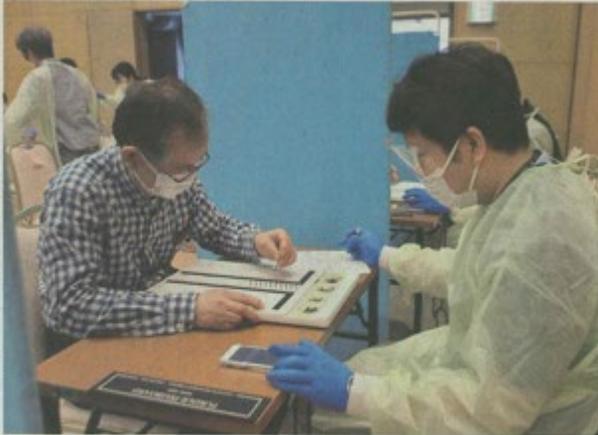


# 健康寿命延伸へ成果

## 弘大と弘前市連携「いきいき健診」スタート



指先の器用さの調査を受ける受診者(左)

弘前大学と弘前市が連携し、高齢者の健康状態を10年間追跡調査する「いきいき健診」が25日、同市の岩木文化センターあそべーるで始まった。認知症の解明と予防、治療法の確立を目指す全国的な大規模調査の一環で2016年度に始まり、市民の健康寿命延伸も目的とする。大学関係者によるとこれまで収集した健康データから、内臓脂肪の多さと認知機能低下の関わりについて論文が発表されるなど、成果が表れている。(石田紅子)

### 内臓脂肪の多さ 認知機能関係性 データ基に論文も

指先の器用さの調査を受ける受診者(左)

脚の筋肉の衰えを歩行速度で見ると、歩行速度が低下しているか細かく診てくれる。自分の体がどう変化

新型コロナウイルス感染防止のため、受診者はワゴン接種を3回終了した人に限定したほか、10分間隔で受け付けて人数を制限し、順路も一方通行にするなど対策を講じた。

健診は隔年で受診する仕組み。今回は16年度に初めて参加した市民が、18、20年度に続いて3回目の追跡調査となった。会場には味

「健診は隔年で受診する仕組み。今回は16年度に初めて参加した市民が、18、20年度に続いて3回目の追跡調査となった。会場には味

同健診は16年度からの10年間、弘大や九州大学など

「おなかの中の脂肪がたくさんたまっている人は認知症に

全国8地点が全国1万人を対象に行う大規模調査の一つ。同健診によってこれまで集めた健康データを踏まえて弘大大学院医学研究科の中路重之特任教授は「おなかの中の脂肪がたくさんたまっている人は認知症に

やかなりやすいのではないかと、この結果が論文として発表されている」と紹介。今後の展開に「全国規模で日本人の認知症をどう予防していくかという結果が出てくればうれしい」と述べた。